



(クリーン対応)ラミネートマシン

あらゆるプラスチックフィルムの表面加工技術を開拓する

旭化学工業株式会社

日本
21

ISO 9001

<http://www.asahi-chemical.co.jp/>

Company Profile

旭化学工業株式会社

住 所 / 〒574-0057
大東市新田西町2-33
設 立 / 昭和59年9月
資本金 / 3,000万円
従業員 / 29名
T E L / 072-874-8520
F A X / 072-874-8521

■主な事業内容

帯電防止用フィルムコーティング加工、プラスチックフィルムの各種コーティング加工およびラミネート加工、コロナ放電処理、スリッター 等

■主な取引先

化学会社、フィルム会社、金属関連会社 等



当社のセールスポイント

フィルムの加工に関することなら、どんな難しいご要望でも検討して製品化に挑みます。



代表取締役
高島 聖仁さん

製品化につながるフィルムコーティング技術ならば、当社ではあらゆることを検討し、チャレンジしていく方針です。「今までになかった、こんなフィルムがほしい」という難しいご相談をいただいても、技術者全員がアイデアを駆使して、なんとしてでも製品を作り上げようという気概を持って取り組んでいます。



導電性高分子を塗布したフィルムを新開発

日常のさまざまな場で利用されているプラスチックフィルムは、表面処理加工技術が施されることにより、多彩な機能を発揮している。旭化学工業は、コーティング加工、ラミネート加工を主体に、各種プラスチックフィルムの表面加工製品の開発にチャレンジしている企業だ。

同社の主力製品のひとつが「導電性高分子による保護テープ用材料」。これはLSIなどの電子部品の搬送時に巻きつけるフィルム状のテープで、ショートなどの不具合の発生を防ぐ役目を果たす。導電性高分子をフィルムに塗布する技術を同社が数年かけて開発したものだ。

このテープが商品化される以前は、カーボンテープが使用されていたが、そのカーボンが脱落するなどの難点があった。したがって現在ではこの導電性高分子のテープがとってかわり、国内シェアは7〜8割、同社の事業を支える大きな柱となっている。

大手メーカーに負けない設備とアイデアで新境地へ

フィルムの表面加工には、前処理加工であるコロナ放電処理から、コーティングやラミネート、そして仕上げ加工のスリッター（切断・巻取）に至るまで多くの工程がある。同社の設備はこれらの全工程を行うことができ、三層・四層のコーティングやラミネートなども可能だ。

「うちは小さな会社ですが、設備は大手メーカーとほぼ同じですから、たいへんのご注文にお応えできます」。高島社長がこう言うように、同社が得意とする加工技術は幅広い。身近な製品で例を挙げると、ホワイトボードの表面や事務機の天板（ハードコート加工）、日本酒・ワインボトルの包装品やリチウムイオン電池のボデー（金属箔コーティング）、両面粘着テープ（離型フィルム）などがある。

そのほか、工業用材料のコーティングやラミネート加工も多数手がけている。近年は電子部品など電

材関連の受注が増えているため、工場はすべてクリーン対応（2000クラス以下）である。

同社は昭和59年の設立以来、口コミで仕事の依頼が寄せられてきたため、営業担当者は配属されていなかった。しかし平成20年に初めて営業社員を2名採用、新規開拓にも積極的に乗り出している。

これからの同社が力を入れた分野は、太陽電池や燃料電池に関連したフィルム表面加工。近々その成果のひとつがたちになりつつあるとのことだ。「当社はありとあらゆる分野のフィルム加工を手がけてきており、今後もその姿勢であらゆる仕事に挑戦していきます」と、高島社長は意欲を見せている。



クリーンルーム